

本日のテーマ「 家族 」

実施日：2018年11月25日

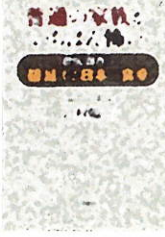
- 1 「おはなししてよおじいちゃん おはなししてよおばあちゃん」
田中裕子／編 1999年 グランママ社 【281.0】

子どもたちから募った質問に植村希林さんをはじめお子明治から昭和生まれの著者が「おじいちゃんおばあちゃん」が回答します。無口な祖父とは何を話せばいいのかわからず、ふたりに文句と困ったものですが、こういう質問をしておけばよかった...と思ひます。



- 2 「普通の家族がいちばん怖い 徹底調査！破滅する日本の食卓」
岩村暢子／著 2007年 新潮社 【498.5】

クリスマスとお正月の過ごし方から家族の实傷をさぐり、こんなことになっている背景にはなにがあるのかということと、まとめた本。無理はいい、頑張らないう。人と同じでなくていいという個性重視の風潮が、家族の年中行事にまで及んでいる結果をみると、このままでいいのだろうかと考えさせられるものがあります。



- 3 「こぐまのガドガド」
フジモトマサル／著 2002年 主婦と生活社 【726.1】

くまの家族のおはなしです。天真爛漫なこぐまと、マイペースなおかあさんと、コワモテだけど、けろろやさいお父さんとのやりとりが、たのしい絵本です。



- 4 「強父論」
阿川佐和子／著 2016年 文藝春秋 【910ア】

作家の阿川弘之の娘、阿川佐和子が書いたお父さんを中心に綴りながら、家族の思い出が綴られたエッセイです。家族がお父さんに振りまわられたばかりも、愛情が垣間みえてほんやりお父さんにたい気持がなりました。



- 5 「アンマーとぼくら」
有川浩／著 2016年 講談社 【Nア】

「アンマーとは？」沖縄語で訳すと「母親」になります。（アマーとも呼ぶそうです）3日間という短い親孝行の時間を描いた家族の温かみを感じることでできる1冊です。



- 6 「三千元の使いかた」
原田ひ香／著 2018年 中央公論新社 【Nハ】

三千元あったら、どのように使いますか？人は、三千元の使い方によって人生が決まるのだそうです。結婚、入院、年金... 20代から70代まで一生涯お金の悩みはつきないようです。人生にはどうにもならないことかたくさんあります。家族で前向きに乗り越えようとする姿には元気をもらえます。



- 7 a. 「I love letter」 あさのあつこ／著 2016年 文藝春秋 【Nア】
b. 「手紙のある暮らし心豊かな。」 2005年 主婦と生活社 【816.6】
c. 「手紙を書きたくなったら」 木下綾乃／著 2005年 WAVE出版 【693.0】

aは、表紙の感じをみて、ほんわかした（ほろほろ）とした話レタなあって思われた方は、読んでみるとピンポイントで、ちょっとヒヤリと少しミステリー要素の短編連作です。

bは、家族愛や友情愛に満ちた手紙がたぐいまる事例でのっています。

cは、久しぶりに手紙を書こう！と思ったり、ジャンルを上げてこの本を読んでおもしろいです！

- 7 「おいしいペランダ」
竹岡葉月／著 2016年 KADOKAWA 【YSN夕】

スター事件に巻き込まれた大学/毎生の主人公（栗原まほ）。助けを求めたことで、あながたのお隣りさん（知り合）と知り合えた。その奥は... 一人暮らしの大学生の食生活も垣間見え、恋した主人公の成長も楽しめるラヴストーリーです。

